



太陽の丘

令和元年度
仙台市立吉成小学校
学校だより 第6号
令和元年7月19日(金)
TEL (279) 1713



多くの皆様 フリー参観に御協力ありがとうございました！

7月3日(水)のフリー参観には、御多用の中、多くの保護者の皆様、地域の皆様にお越しいただきありがとうございました。2,3校時の授業を参観できる設定でしたので、お子さん以外の学級を参観することもでき、学校の教育活動を知っていただける機会になったと思います。授業は、国語や算数に限らず、書写の習字の活動や音楽、道徳、修学旅行の報告会、ゼリー作りなど、いろいろな活動で子供たちが活躍する場面を御覧願えたらと教師も工夫をしていました。

また、休み時間の様子を見ていただくことで、友達との関わりや学習とは違ったお子さんの一面を知っていただけたと思います。特に1年生は、この3か月で自分たちでできることが増え、学校生活を楽しくしている様子を感じられたと思います。

一学期前半の活動では、6年生は修学旅行、5年生はスチューデントシティなどの校外での活動を通して、また、各学年では、学校にいらしていただいた地域のゲストティーチャーやボランティアの皆様との関わりを通して貴重な経験を積んできました。人との関わりによって物事の捉え方や考え方に成長を感じることも多くありました。夏休みにも、多くの方と関われる機会を設けてもらい、御家庭でも励ましていただけると幸いです



フリー参観 2年「道徳」授業

いじめシンポジウムでは貴重な意見交換になりました！

7月3日(水)のフリー参観後の4校時には体育館で「いじめシンポジウム」を行いました。当日は、お申しいただいていた方以外にも参加があり36名の皆様で行いました。

はじめに学校側から「いじめとは・・・」「本校の取組と現状」について説明をし、その後各グループごとに意見交換をしていただきました。学校での地域の皆様と保護者の皆様との意見交換はなかなか機会が作れなかったもので、いろいろな立場から御意見をいただくことで、とても有意義な時間となりました。各グループで話し合われた内容の紹介をしてもらい、全体での情報共有を図りました。

最後に学校評議員から「SOSを子供たちが自ら出せるように関わることや子供が高学年になって、いろいろな場面で自分で判断できる子供に成長させるためには何が必要かをこれからも考えていくことが大切である。」というお話をいただきました。短い時間でしたが、話された多くの御意見を参考にし、これから仙台市いじめ防止等に関する条例を受け、本校の基本方針策定に向けて検討していきたいと考えます。御協力いただきました多くの皆様御協力ありがとうございました。



保護者と地域の方との意見交換

グループでの意見交換からの内容から <一部紹介>

- ・学校全体で対応しているのが分かった。取組を知り、学校も一生懸命行っているのが分かった。
- ・いじめの報告は、どの時点で保護者へ報告するのか・・・。どの辺からいじめと判断するのか。
- ・あったか言葉、ちくちく言葉は学校の中では良いが、友達の中でも、もっと浸透させたい。
- ・子供は素直だから、「嫌なことがあったら、これはいじめだよ」と教えれば、そうインプットする。大人になったときに、本当に嫌なことがあったときにSOSの出し方を伝える必要がある。
- ・高学年は、いじめを報告するのが面倒くさい。我慢すれば、通り過ぎるのを待っているのでは。

※この他にも、各グループで話し合われた御意見は、今後の教育活動に生かしてまいります。

学校評議員会・学校関係者評価委員会

7月3日(水)の9時40分から学校評議員会・学校関係者評価委員会を開催いたしました。学校評議員、学校関係者評価委員の皆様には、その後3校時にフリー参観で各教室を回っていただき、4校時は体育館でのいじめシンポジウムにも参加いただきました。

学校評議員会・学校関係者評価委員会では、今年度の学校経営方針、協働型学校評価の重点目標について御意見をいただきました。協働型学校評価は、学校・家庭・地域の三者が協働して重点目標を設定し、子供たちのより良い姿の実現に向けて取り組み、その成果を確かめながら、改善活動を継続的に行っていくものです。子供たちの成長や将来について、学校・家庭・地域が共に願いや期待を込めて行動し、子供たちを支えていくという考え方に基づいています。

令和元年度は、「心豊かでたくましく、しなやかに生きる子供の育成」という教育目標に向けて、協働型学校評価における到達目標・重点目標を次のように決めました。

協働型学校評価における到達目標

◇ものの見方や考え方の多様性を理解し、他者への共感・思いやりの心を持って関わり合う子供を育てる

協働型学校評価の重点目標

◇認め合い、助け合う子供の育成

○進んで挨拶ができる児童の育成

○あたたかい言葉で交流する児童の育成

三者の具体的な改善活動

学 校	家 庭	地 域
<ul style="list-style-type: none"> ・「挨拶運動」「あったか言葉のプレゼント」の継続をする。 ・「道徳通信」を通して、学校の取組を知らせる。 ・地域の方々と連携した授業や教育活動を展開し、関わる力を付けさせる。 ・「吉成っこの約束」「吉成学習スタンダード」の定着を図る。 ・子供たち、学校の様子を積極的に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で挨拶をする。 ・「道徳通信」を読み、学校のことを話題にする。 ・「吉成学習スタンダード」の協力をしてもらう。 ・日頃のお子さんの言葉遣いに気を付けもらう。 ・子供たちへの手本となる行動を心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちと挨拶し、一声掛けてもらう。 ・地域の活動に子供たちの参加を呼び掛けてもらう。 ・ゲストティーチャー、ボランティアとして学習に参加し御協力してもらう。 ・子供たちへの手本となる行動を心掛ける。

○ 学校評議員会・学校関係者評価委員会から御意見から <一部紹介>

- ・いじめシンポジウムのネーミングでは、何のためにシンポジウムをするのかを考えたネーミングにした方が良い。あったか言葉でいじめの未然防止を訴えるのであれば、「いじめ」が頭文字にくるのでなく、「きずなシンポジウム」のように前向きな表現の方が良いのではないかと。
- ・いじめ条例の基本理念に立って、地域・市民でどう協力していけば良いか。(地域の方々の関心をどう高めていけば良いか。どう推進していけば良いか。)
- ・ネーミングは大事である。「いじめ」という言葉ばかりが多い。被害者の感覚でいじめが定義されるのもどうかと考える。道徳が教科になったが、1年生は「道徳」について理解がされているか。むしろ分かりやすい言葉を用いた方が良いのではないかと。「道徳通信」も「あったか通信」の方が、吉成小らしいのではないかと。

※貴重な御意見ありがとうございました。今後の教育活動に生かしていきたいと考えています。



学校評議員会・学校関係者評価委員会



各学級を授業参観しました